

## 練馬区小中一貫教育資料作成委員会（第12回）「表現力の育成」部会 要点録

開催日時	平成22年7月15日(木) 午後4時05分～午後6時35分	
会場	練馬区役所本庁舎12階 教育委員会室	
出席者	委員	村松賢一、荻部一夫、当間一則、山口義一、武井和幸、井上康子、三浦秀樹（敬称略）
	その他	教育出版
	事務局	五十嵐浩子 統括指導主事、谷川拓也 指導主事

### 事務局

第12回の表現力の育成部会を始めさせていただく。前回から事例を持ち寄っていただいているが、今日はさらに持ち寄っていただいたものを討議し、いい資料集を作ってもらいたいと思う。まずは部長より挨拶をお願いしたい。

### 部長

今日はそれぞれの事例の説明と、どのような形で冊子にまとめていくかというあたりまで、見通しが立てたい。

### アドバイザー

今日は参考資料として、テレビ放送された番組のビデオを持ってきた。6年生が6年間を振り返り、ITを利用したプレゼンテーションを行うものである。我々の試みと大きく重なる部分があると思うので、後ほど見ていただきたい。

### 事務局

このあと事例の協議をするが、その前に事務局より資料の説明を。

手元の資料をご覧いただきたい。他の部会がどんなことをしているかの状況報告をさせていただく。

心の教育では五つの柱それぞれに目指す子ども像からの9年間にわたる流れを押さえ、理論構築しようとしている。5本の柱について2回にわたり検討し、資料のような表になった。次回はそれぞれが事例案を持ち寄るという段階になっている。

キャリア教育からは書式の提案があり、①に事例名、②に実施学年、③にはねらいが入るが、ここで取り上げているのは生活科の事例なので生活科としてのねらいが書かれている。④では事例がキャリア教育とどういう点で関連しているかが入り、⑤には小中一貫教育校で実践された場合にどんな効果が期待できるかが挙げられている。今度開校する学校では5年生以上が中学校の校舎に移る。本来生活科で1年生は小学校の校舎を探検すればよいが、小中一貫校なのだから中学校の校舎も探検しそのことでどんな効果が期待できるかというようなことが書かれている。⑥には事例の概要が示されているが、概要をできるだけ詳しくし、これを見た人がすぐに指導できるぐらいのものにしようと考えている。特に④と⑤の部分は全ての部会で、できるだけ合わせてもらいたいとの提案だ。

体力の向上ではキャリア教育の提案を受け、③～⑤について触れていただいている。その他に指導計画、本時の指導案などが書かれている。特に注目したいのは第Ⅱ期における技の指導のつながりということで、小学校だけ中学校だけ見ていると分からないことを表で示している。一貫校が教育計画を検討する際に、滑らかな接続という点で非常に大事なことが見えてくる。

本部会でも③～⑤の部分を書き加えることができるか、ぜひお願いしたいということで、先に説明させていただいた。

#### 部長

今の提案を受け本部会も同様のプロットで書き進めていくということだがいかがか。特に反対意見がなければ、不都合はなさそうなので、提案に沿ってやっていくということを確認させていただく。

#### アドバイザー

教材案の数としてはどのくらいの数を収録できるのか。

#### 事務局

教材数というよりページとして 60 ページくらい。4 ページのものも 6 ページのものも出てくると思う。目安として 10 ぐらい特に重視したい事例があれば十分だと思っている。

#### アドバイザー

事例は 10 ぐらいあり、割とバランスもとれていると思う。

#### 事務局

そういう意味で本部会是他部会に遅れてはいないが、全学習期で扱う「語い力」がどうなるかについて心配している。

#### 部長

ある程度重点を置き、モデル化した事例を出すことで、題材や内容を入れ替えることもできるようにする。表現力の場合はそういうことも可能だと思う。10 の事例というより類型別のパターンを 10 程度出せればと思う。事務局からの提案はこれで終わらせていただく。

各委員の事例の説明の前に、ビデオを見させていただく。

ビデオ 1 「プレゼンテーション」    ビデオ 2 「音読発表会」    ビデオ 3 「早口歌」視聴

#### アドバイザー

ビデオ 1 はプレゼンテーションで写真が有効的に活用されていた。また子どもたちが書いた原稿を読むのではなく、自分の言葉で話しているのがとてもいい発表だと思う。

ビデオ 2 は発表する 4 人のグループがそれぞれ工夫して分担しており、とても面白い。

ビデオ 3 も 3 人のグループが身体表現などを織り交ぜてすごく楽しそうにやっており、こういった発表・表現もいいものだと思います。

#### 部長

先ほど語い力の話が出たが、詩の音読というのは語彙力を高めるのにすごくいいと思う。

次に各委員から事例案の説明をいただく。最初に学級活動「6年生にありがとうの気持ちを伝えよう」、総合的な学習の時間「未来のために」についてお願いしたい。

#### 委員

両方ともドラムジカ方式のものを書いてきた。2年生の方は年度末にある6年生を送る会に向けてということで作っている。簡単なストーリーを子どもたちが考えるか、教師が提案し、歌いたい曲・替え歌等を交えながらグループ活動を通して1個の作品を仕上げていくというもの。私も一度やったことがあるが、歌の選曲だけきちんとすればやりやすい事例だと思う。

4年生の方は社会科で学習するゴミや水の問題から課題をもたせ、課題別のグループで自分たちに何ができるか考えさせたあとドラムジカに入っていく。こちらも一度やったことがあるもので具体的に実用できるものがないかと思い、教科にあてはめて考えてみた。

#### 事務局

この事例は音楽の先生の協力が不可欠か。

#### 委員

2年生の方は担任が一人でやっていた。4年生の方は保護者向けの発表という大きな動きだったので、一緒にやった。ストーリーに関しては調べ学習での課題をピックアップして、担任が作っていた。

#### 部長

本部会では第I期は表現意欲の醸成期ということでまとめているが、活動のねらいのところは昨年度話し合ったことも書かれており、関連の記述として参考になると思う。

#### アドバイザー

イメージがつかめないのだが、4年生の方の4時間目までは普通の調べ学習だが、調べてきたことは5時間目以降のドラムジカにどういう形で生きるのか。

#### 委員

自分たちの課題がこうだから、明日から自分たちはこう取り組もうという答えを出してくる。自分たちが調べた昔や今の様子をパネルディスカッションとして発表したり、さまざまな取組みをパネルや写真、動画を使って子どもたちに分かりやすく説明したりする。

#### アドバイザー

あまり見たことがない活動なのでイメージしにくかった。調べるところまではどこの学校でもやるが、5時間目以降の展開もどこでもできるものか。

**委員**

調べたことをグループごとに発表するのは各学年でもやっており、それを劇化し歌を入れているというだけで、時間もさほどかからない。ただ教師側がイメージできなかつたり、音楽の先生が引いてしまうと難しいかとは感じている。

**アドバイザー**

調べたものをもとに自由に劇をつくるという発想はすごく面白いと思う。

**部長**

私も活動そのものはいいと思うが、こういった活動を見たことも聞いたこともない人が、この紙面だけで授業をイメージするのは難しいかもしれない。

**委員**

分かりやすく紙面に表すとすれば、非常にややこしく難しいものになる。

**委員**

ただ普通に発表するのではなく、劇化したり替え歌にしたりというのは、表現力を育てる上ですごく有効だと思う。要するに発表の工夫の例ということで、このままやらなければならぬという訳ではない。

**部長**

低学年は役柄を設定してやるとなりきることができる。それをうまく使うと発表が楽しいということを体験的に感じ取れるので有効な方法とは思いますが、それを紙面にどう表すかが問題。

**アドバイザー**

2ページでは難しいが、6ページくらい使い写真などがあれば分かりやすく十分説明できる。2年生の事例で質問があるのだが、6年生に歌や言葉をプレゼントするにあたり、事前に取材などをして、その学校ならではの特別なプレゼントがあるといいと思うがそれは可能か。

**委員**

セリフは教員がつくるので、組み込むのは可能だと思う。

**事務局**

6年生ではなく9年生とするべきか。4年生が2分の1成人式でプレゼンをする際に、1・2年生が「中学校の校舎に行っても頑張ってるね」というのも変だし、2年生が6年生に向けてというこの提案をすればどの小学校でもできると思うが、一貫教育校ではどうしようかと考えると、接点が分からない。

**部長**

話は外れるが小中一貫になった時、卒業式はどういう形で実施するのか。

**事務局**

6年生で簡単にやることになっている。小中いっしょにやりたいという案も出ているが、それは難しい。

**アドバイザー**

2本立てにできないか。6年生でやってもいいし、一貫ならば4年生が送るというシチュエーションも可能と思うが。

**部長**

9年生では学年が離れすぎているので、2年生が4年生にということで原案をつくってはどうかと思う。この活動をいかに紙面で表現するかという点に少し課題が残ったが、活動自体の意義・効果の面ではいい事例だということでよいか。

**事務局**

担任として35時間の学級活動のうち5、6時間をこの活動に使えるか。

**委員**

他の何かと関連して、例えば2年生は音楽も担任がやっているので音楽と絡める……。

**委員**

生活科と学級活動の方がよいか。

**委員**

生活科は生活科としてやらなければならないことがあるので、どれか一つというのは厳しい。

**部長**

生活科も音楽も関連させて扱う。ねらいのところには学級活動のほかに生活科や音楽のねらいも書いたほうがいいということになる。この件はここまでとし、次に移る。

**部長**

これは以前提案された原稿をこの形式にあてはめたものだ。ねらいには総合的な学習の時間と表現力部会としてのねらいを二つ併記した。「指導のポイント」には少し書き込んだところもあるが、指導者側が表現力を育てるためにどこに重点を置いて指導するかというようなことを提案した。最初に戻ると第Ⅰ期の表現力の目標として「表現意欲の醸成期」と記しており、そのためにどんなポイントが必要かということがここに書かれている。例えば、調べる力を伸ばすには定期的に畑で実物を観察させることが大事というようなことや、表現に関する技能であれば新聞にまとめるなどということを提案させていただいた。

最後の4は付け加えたもので、練馬大根という「題材の特徴」について記述させていただいた。

**委員**

この事例は3年生ぐらいの発表で、あまり堅苦しくないものにしたかった。6年生が家庭科でご飯をつくるので、3年生が練馬大根で作った漬物を食べながら交流会みたいな発表ができればよいかと考えてみた。

**事務局**

3年生の総合だと、どの程度の調べて発表ができればよいのか。

**委員**

紙芝居やペープサートのように全体の発表というよりも、もっと簡単なものだと思う。

**事務局**

調べて発表するのはどこでもやっているのだから、この活動ではこういう表現力のために何がポイントになるかという、先ほど部長が書かれたようなことを精査して提案できればよいのでは。

**委員**

指導のポイントで見えてくるものがたくさんあり、すごく大事だと思うが、事務局から提案された⑤の「本事例の小中一貫教育校に期待される効果」と内容がダブってしまうのではないかと。表現力部会としては部長の提案のような細かな記述で迫れたらいいと思う。ダブるとしても⑤はあった方がいいのか。

**部長**

私もプロット立てはすごくいいと思うが、生活科の「ともだちいっぱい！がっこうだいすき」という単元全体のことが集約されていて、紙面上は分かりづらいと思う。

**事務局**

では事務局にあずかせていただく。どんな流れなら共通項が見いだせるか考えて、再提案したいと思う。

**アドバイザー**

話が戻るが、この練馬大根の事例は表現のどこを鍛えるかという焦点が絞られていないように思う。栽培や漬物にする体験を踏まえて小グループで交流するだけで十分ではないか。生の声で伝えられるはずなので新聞にまとめたり、ポスターセッションにはせず、食べながらの交流会を前面に出したほうがいいのではないかと。

**委員**

3年生だと植物などと同様に成長の記録をとる。食べる前に成長記録の発表をし、そのあと食べた感想を言い合ったり、6年生から「お米はこうなんだよ」と逆に返してあげられると、いい交流ができるかなと思う。

**部長**

言葉だけのやりとりは3年生では難しいと思う。成長記録や何らかの物があって、それに基づいて話をするというふうにしたほうがいいのではないかな。

**アドバイザー**

確かに完全に自由なおしゃべりでは進まないと思うので、進行表や大ざっぱなものが必要になる。

**部長**

その交流会が具体的にイメージできるような記述があったほうがいい。3年生が6年生に話をする時に新聞にまとめると言ったが、具体的にこんな形でまとめたものを使って説明するといい、という資料などが載っていると指導者がイメージしやすい。

**委員**

言葉だけではなくて、交流会のプログラムや実際に子どもが作った具体例が載っているといいと思う。

**部長**

そうすると、これも4ページぐらいにすぐなってしまう。

**事務局**

これは指導計画だけなので、本時、発表会なら発表会の指導案も載せなければならない。その他、場の設定やプリントアウトして子どもにもたせる発表カードなども必要になる。

**部長**

それでは6ページぐらいになってしまうかもしれない。時間もないので次の説明をお願いしたい。

**委員**

私は自己表出ということで考えてきた。9年間一貫した指導方針で指導することで指導効果が高まるという特性を、学級会の時間にあてはめてみた。例えば話し合いのルールを1年生～9年生にかけて身に付けさせるために司会用のマニュアルを作ったり、反対意見だけ言わず代案を出すなど。議題についても話し合いの先に具体的な活動を伴うものにする。その他では話し合いの前の準備を充実させたり、教師の評価を入れるようにすることが必要と考えた。

まだ形にはなっていないが、学級活動における指導のポイントや目指す児童像をマトリックスのような形で整理し、具体的な学級会の1時間を取り上げて、指導案を作ればと思う。

**部長**

何か意見はあるか。具体的な事例が欲しいのだが、具体的なある1時間、あるいは数時間分の活動例を示すのは可能か。それと学級活動の9年間のマトリックスというのは載せることが

できるか。

**委員**

活動例は示せると思う。

**部長**

これについては事例を提案していただいてからということでしょうか。

**事務局**

今日、欠席の副校長先生からも同じく自己表出の提案をいただいている。二人が同じ事例に取り組んでいただくと、Ⅱ期ではこういう力をつけるためのこういう活動があり、Ⅲ期ではこうだという関連が必要になってくる。

**アドバイザー**

先ほど提案された能力はすごく大切に、話し合いに習熟させていくという事例は本当なら載せたい。ただ本部会では双方向のやり取りはカットするという事になったはずだ。自己表出というのは人に自分のことを知ってもらうのが基本で、先ほどの提案の反対意見だけでなく代案を出すというのは物事の結論を決めていくための話し合いで、自己表出の系列とは違うと思う。

**部長**

先ほどのビデオの自分の成長を振り返るという題材は自己表出だが、2分の1成人式はやらないのか。

**委員**

2分の1成人式をやるとすればⅠ期の最後になるが。

**アドバイザー**

提案だが先生には4年生で2分の1成人式をやっていただき、6年生でビデオのようなパワーポイントを使った事例を一つ入れる。本日欠席している副校長の提案は卒業間近のⅢ期にITを使わずノー原稿で行うということなので、自己表出の系列で事例が三つになる。

**部長**

第Ⅲ期の自己表出の事例にも目を通していただきたいが、自己紹介を聞く相手は8年生が5年生、9年生が6年生。合同学年朝礼という時間が取れるのか。

**事務局**

ノー原稿で自己紹介を2分間述べるのは相当長く、大したもの。入試の自己アピールと同じ長さなのでその点も意識してのことだと思う。

委員

中学校では合同朝礼があるのか。

事務局

今はないが、できるだけやってもらいたいと画策している。小学校では毎週朝礼がある。

委員

うちの中学校では校長の朝礼、生徒朝礼、全体朝礼、学年朝礼と月4回やるが、学年の先生が中心になり、集会のような形で行われる。

部長

ということは、合同朝礼の時間は取ろうと思えば取れるということ。

事務局

今日の検討内容を欠席の副校長にも伝え、返したいと思う。

部長

それでは次に副部長から提案の説明をお願いしたい。

委員

私は SST(ソーシャル・スキル・トレーニング)のやり方ということで中学校の立場からお話ししたい。5、6年生の総合的な学習の時間での事例をもってきたが、一点確認したい。5年生から中学校校舎に入ることだが、部活動はいつから始まるのか。

事務局

5年生からだ。

委員

そうすると部活動の最初の段階に上下関係などでトラブルが起こるものなので、5、6年と書いたが3、4年からでもいい。上級生と下級生が部活動や同じ校舎で生活していく上でのトラブル回避になるので、よりよい関係をつくるための SST が必要と思う。

以前いた学校では総合教育センターから講師を招き、年に3、4回行った。教員が場を設定し、ロールプレイングでどのように対応すればトラブルを回避できるかを示す。子どもは結構頭では理解できると思うので、レディネス(学習準備性)をつけるという意味で大事だと思う。

裏には例を三つ提示した。ある事例に対し消極的な方法、攻撃的な方法、一般的な方法に区分けした選択肢を与え、自分なりにトラブル回避のための言葉づかいや対応を学んでいくというものだ。本部会として特に「態度・相手意識」を重視した事例として、まず頭で理解し、行動の中で表してもらおうための SST について提案させていただいた。

部長

質問があればお願いしたい。

アドバイザー

SSTは継続しないと効果がないが、どういう示し方をするのか。また2時間扱いになっているが、どういう時間帯にこれをやらせようとしているのか。

委員

総合的な学習の時間や学級活動で学期ごとにこういうのをやってみる。1回については2時間ぐらいあればいいと思う。あとは実際にトラブルが起きた時に適宜という性質でよいと思う。

アドバイザー

専門の講師を呼んだとのことだが、現役の先生方が指導できるか。

委員

講師との事前打ち合わせは必要だが、できる。

アドバイザー

私は当初、論理的な表現力、自己表現、ソーシャル・スキルの社会的表現力という三本の柱を提案した。しかし社会的な表現力については「相手意識」ということで他の学習に埋め込むことができるので、柱立てはしないということになった。元々の立場からはこういう時間はあってもいいと思うが、2時間程度でどのくらいスキルが身に付くかは疑問だ。

委員

時間があれば多くの場面設定ができるが、なかなか時間は取れない。ただ小学校から中学校にかけて徐々に大人の付き合いにさせていくために、いろいろなレディネスを小学校の最後あたりで培っておいてもらった方がいいという思いがある。

部長

確かに表現力の一つのコミュニケーションをする上で、相手との関係性を円滑にするのは重要な要素ではあるが、本部会がそこまで踏み込んでスキルだけをピックアップするのはどうかと思う。本部会では情報を発信する側の事例を集めるということなので、自己表出や調べたことを相手に伝えるといった活動例に変身させていただけると、上手くいくのではないかと思う。

委員

ちょっと時間をいただいて考えてみたいと思う。

部長

次に9年生の「卒業演奏会をしよう」という事例だが。

**事務局**

今日は欠席ということで、事務局から提案した資料を渡して形を整え直してもらえば具体的に見えてくると思うが。

**アドバイザー**

ちょっと議論をして、私たちの注文を付けくわえた方がいい。このままだとただの音楽の発表会なので、本部会が中心に考えている言葉の表現部分が何か付け加わるといいと思う。

**委員**

総合的な学習の時間と書いてあるが、音楽かなと思った。

**委員**

1・2時間目の、曲について調べたり、選曲のエピソードを考えたりするや、演奏前に発表するための原稿をつくるというあたりで総合的な学習の時間扱いにしようと、努力しているのかとは思いますが、全体の分量からすると音楽的なものが中心で苦しい。

**委員**

演奏会が前面に出過ぎているので、先ほどのドラムジカのように劇など絡められるといいと思うが、学芸会みたいになってしまうかもしれないので難しい。

**部長**

では最後の提案で職場体験。6年生は身近な人々の暮らし、7年生は職業調べと興味ある職業、8年生では職場体験の報告を小中合同発表会で学年代表が発表するというものだが。

**委員**

6年生では将来どんな自分になりたいかを総合で調べたり、地域の人に仕事の話をしてもらい、それについて考えたりする。せっかく職場体験した8年生がいるならその発表を6年生が聞きに行けると面白いと思う。この事例のように各学年が学年発表し完結するよりは関連させ、学年の交流が生まれた方がよいのではないか。

**部長**

それぞれ発表する側と聞く側がいるので3日間必要になる。

**委員**

8年生の発表を聞きにいければいいと思う。6年生では職業に対して調べたりイメージするところまでで、発表まではいかなかった。それよりも自分のやりたい職業の職場体験をした8年生のところに行って話を聞くというのはすごくいい学習になると思う。なにもかもより興味のあるもののお話を聞く方が意欲も出てくる。全体の発表というよりはブースのような形で。

**アドバイザー**

8年生の職場体験はそのような交流する形のほうがいいと思う。7年生の職業調べを6年生が聞きに行くことも十分成り立つが、6年生の調べた結果をもし発表するとなれば、7・8年生がそれに参加するという活動は成り立つか。

**部長**

6年生の調べたものは7・8年生が聞きに行くような内容ではないかもしれない。

**アドバイザー**

それでは職業という点で共通している7・8年生の活動は、交流を含めて成り立ち、6年生がそこに聞きに行くのはいいが、6年生の活動は別に考えるということでよいのではないか。

**部長**

これと似たような事例がキャリア教育にもあって、きっと発表の場面も出てくると思う。表現力部会の立場からはこういう活動を提案するということがよいと思うが、部会を超えての橋渡しは我々にはできない。

**事務局**

それについてはもちろん事務局でやらせてもらう。

**部長**

それでは伝えていただく内容としては、8年生の職場体験はブースごとにやり、見に行くのは6・7年生。

**委員**

ここにある通り6年生が身近な地域の人々の暮らし調べをするなら、職業についての発表を聞きに行ってもいま一つかなと思う。5・6年生が職業について調べたりする活動があればいいと思うが、それだと7年生の活動とダブってしまう。

**アドバイザー**

いまのところ情報発信型のプレゼンテーションの事例はこれだけなので、大事にしていかなければならないと思う。

**部長**

それでは6年生には調べさせるのではなく、職業に対してすこしイマジネーションの世界に近い自己表出をやらせ、7年生ではより現実味、具体性のある職業調べをする。8年生は職場体験に基づき将来の夢を固めていくという、段階的に現実社会の中に入っていくというストーリーでやっていけばよいのではないか。

ところで今度うちの学校にも職業体験で生徒が来るのだから、中学校では将来こうなりたいというところに行くよう指導しているのか。

委員

基本的には生徒が興味・関心のある職種を教師に伝え、我々が引受先を探しお願いするが、第3希望ぐらいまで聞いていても、全ての生徒の希望通りぴったりとはいかない。

部長

さっきの話につながるが、それでは発表者は本当に自分のやりたいことを発表しているのかという問題があるのだが。

事務局

去年、ある学校であまり人気のない職業の職場体験を見たが、見方が変わったとか、嫌だったが行ってみてこういう職業も必要と感じたといったプラス評価の発表が多かった。

部長

なるほど。興味のあるところで話を聞くといっても、どのブースも自分のなりたいものとは違うという場合もあるだろうが、そのなかでも選択の余地があったほうがいいかもしれない。

ではおおよそこんなことを伝え、再提案していただきましょう。他の委員の皆さんも今日、全体として確認したことや、絶対落とさないでいただきたいということ、また個別の先生方にもお願いしている内容で作りなおしていただき、再提案をお願いしたい。

(第13回小中一貫教育資料作成委員会「表現力の育成」部会 日程確認)

8月6日(金) 16:00～ 場所：練馬区役所本庁舎 12F 教育委員会室

アドバイザー

副部長は以前ディベートの提案をされていたと思うが、根拠に基づいて主張するという活動がいま事例にないので、ディベートの活動例があったほうがいい。

部長

同感だ。

委員

ではSSTの事例は没にしてディベートのほうを深めて考えてきたい。

アドバイザー

あまり一般的な論題ではなく、中学生にふさわしいものがあると思う。

部長

ありがとうございます。以上で終わりたいと思う。